

放射線データの概要 5月分（5月1日～5月31日）

2024年6月6日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

● 2024年5月に公開したデータ数は約17,300件

（「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ公開）

● 敷地内ダスト（粉じん）濃度は低い濃度で安定

1号機では、2022年4月13日から大型カバー設置工事（アンカーおよびベースプレート設置）を実施中。また、2024年3月26日から耐震性向上を目的に原子炉格納容器の水位低下を実施中。

2号機では、X-6ペネ内に確認された堆積物を除去するため、2024年3月18日から5月13日にかけて堆積物除去装置（AWJ）による堆積物除去作業を実施。2024年5月28日から6月1日にかけて原子炉格納容器内部調査および、燃料デブリ試験的取り出し作業に向け、作業上の安全対策、汚染拡大防止を目的としたX-6ペネトレーション接続構造を設置。現在、接続管の設置に向けた準備を実施中。2号機原子炉建屋オペレーティングフロア排気設備のダスト指示値に有意な変動はない。

3号機では、圧力抑制室に滞留する水素を含む滞留ガスについて、2023年12月19日からリスク低減を目的に滞留ガスの少量パーズを実施中。

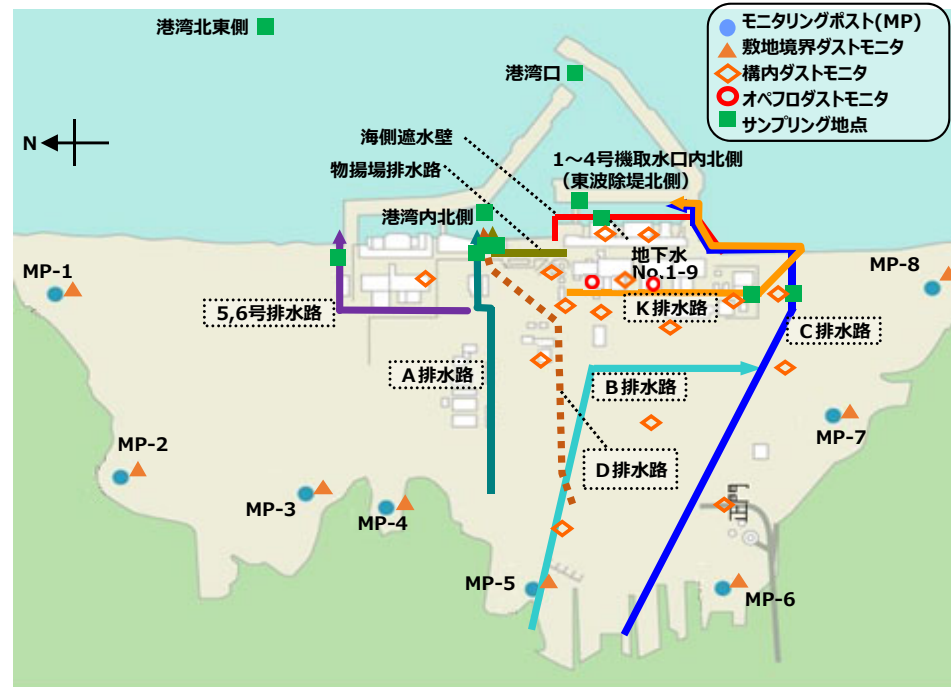
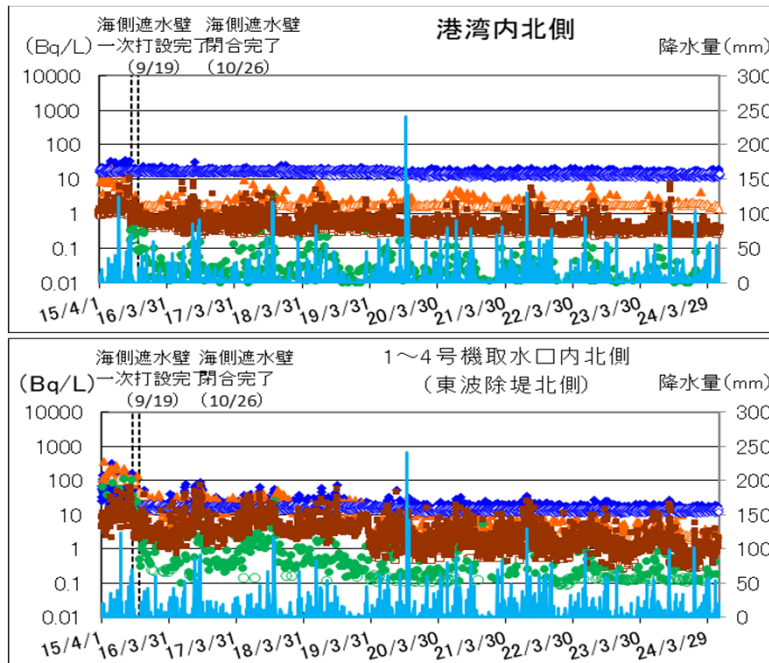
これまで同様、構内ダストモニタ、敷地境界モニタリングポスト・ダストモニタの指示値に有意な変動はないこと、プラントパラメータに異常がないことを確認している。

● 港湾内外の海水放射性物質濃度は低い濃度で安定

1-4号機取水路開渠の海底土再被覆工事を2023年10月16日より実施中。港湾内の海水中セシウム濃度は、降雨後に一時的な上昇が見られるものの、速やかに低下して低い濃度で推移しており、工事による影響はみられていない。

2024年5月17日から6月4日にかけて、海水で希釈したALPS処理水の2024年度第2回目の海洋放出を実施。発電所周辺海域の海水中トリチウム濃度は、当社の運用指標（放出停止判断レベル：700ベクレル/リットル、調査レベル：350ベクレル/リットル いずれも発電所から3km以内）より十分低い値であり、計画どおり安全に放出できていることを確認している。なお、5/6号機取水路開渠内の取水環境維持を目的とした浚渫工事についても継続して実施中。ALPS処理水希釈用海水を取水している5号機取水口のセシウム濃度に、浚渫による影響は見られていない。

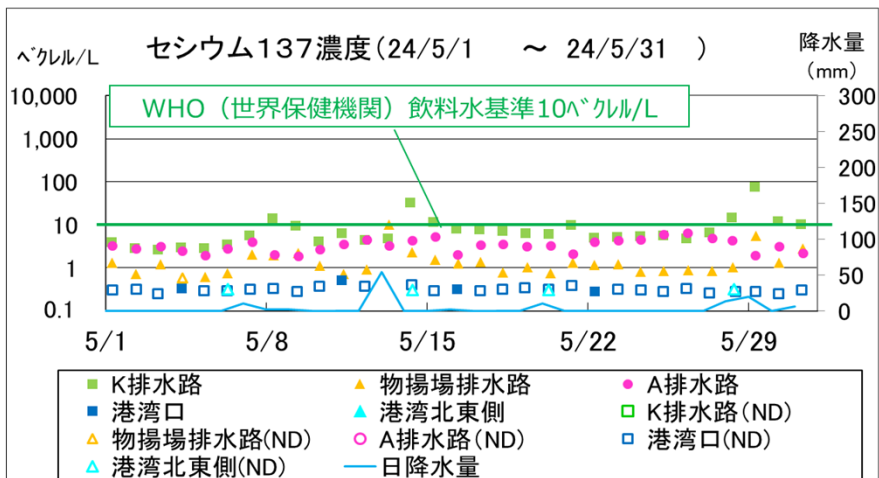
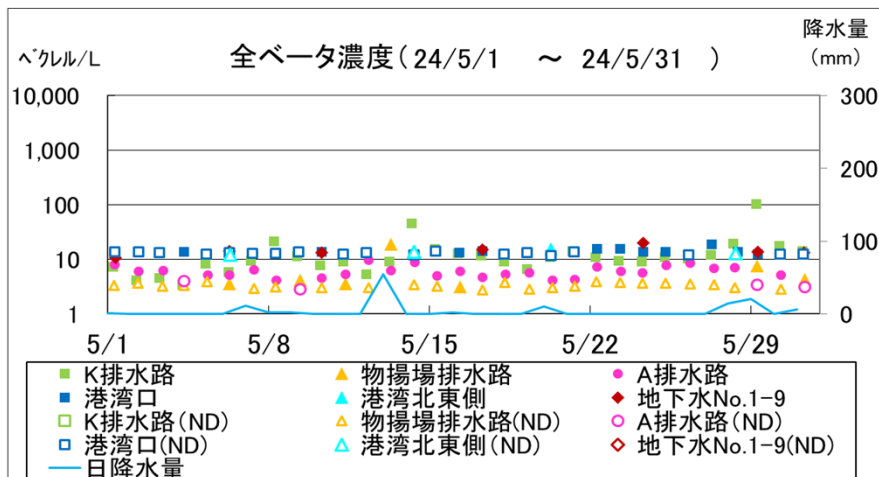
〈海水中放射性物質濃度〉



放射線データの概要 5月分詳細 (5月1日～5月31日)

A 水 (海水、排水路、地下水等)

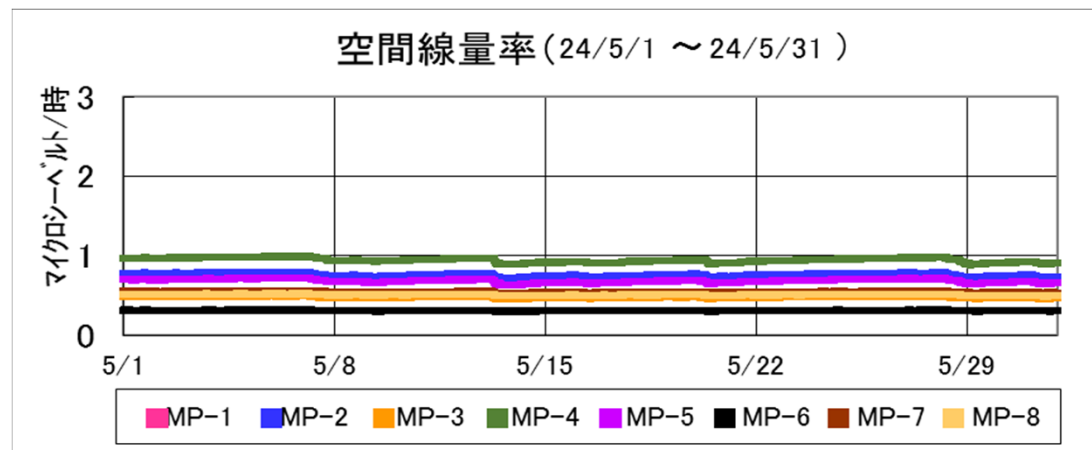
- 降雨時には、排水路の全ベータ濃度、セシウム137濃度が一時的に上昇。
- 降雨時のK排水路を除き、セシウム137濃度は、WHO飲料水基準を下回った。



- 全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。カリウム、セシウム、ストロンチウム等が含まれる。
- 海水の全ベータについては、天然の放射性カリウムが約12ベクレル/L含まれている。
- (ND)は、不検出との意味で、グラフには検出限界値を記載。
- 地下水No.1-9については全ベータ濃度で監視。

B 空間線量率 (測定場所の放射線の強さ)

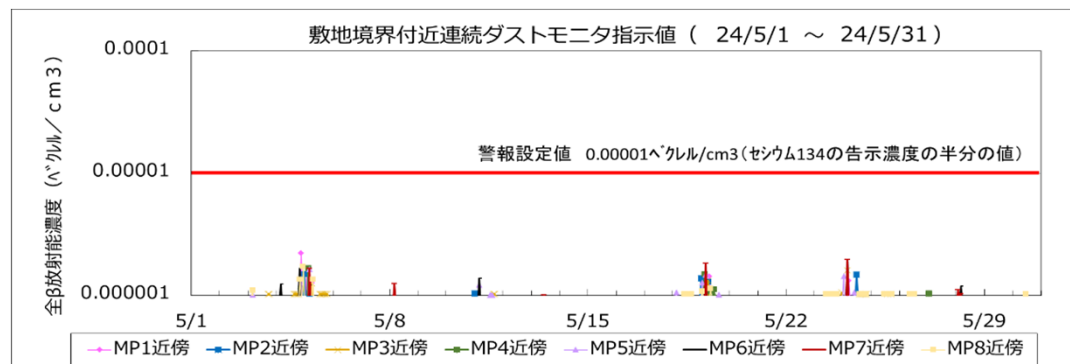
- 低いレベルで安定。



敷地境界における1時間あたりの線量率を3マイクロシーベルトとすると、例えば1ヶ月間この場所で作業を行った場合(1日あたり8時間、20日間作業をしたと仮定)の被ばく線量は約0.5ミリシーベルトになります。

C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低い濃度で安定。

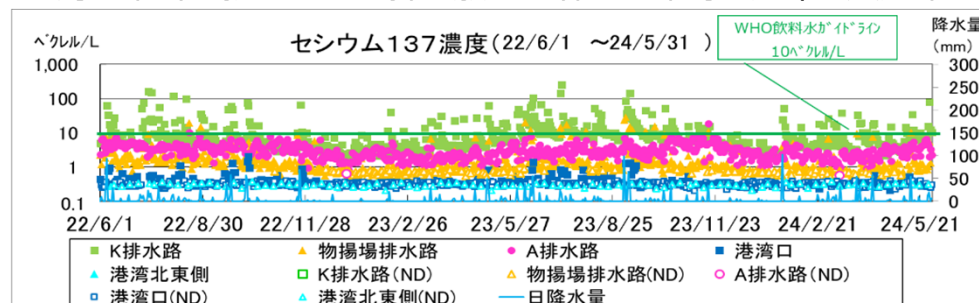
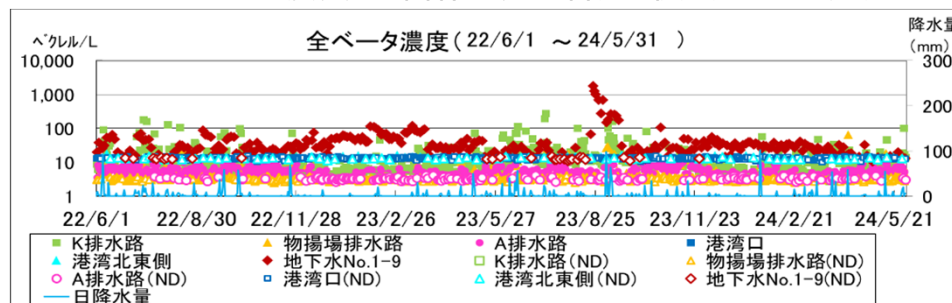


- 告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準

放射線データの概要 過去の状況

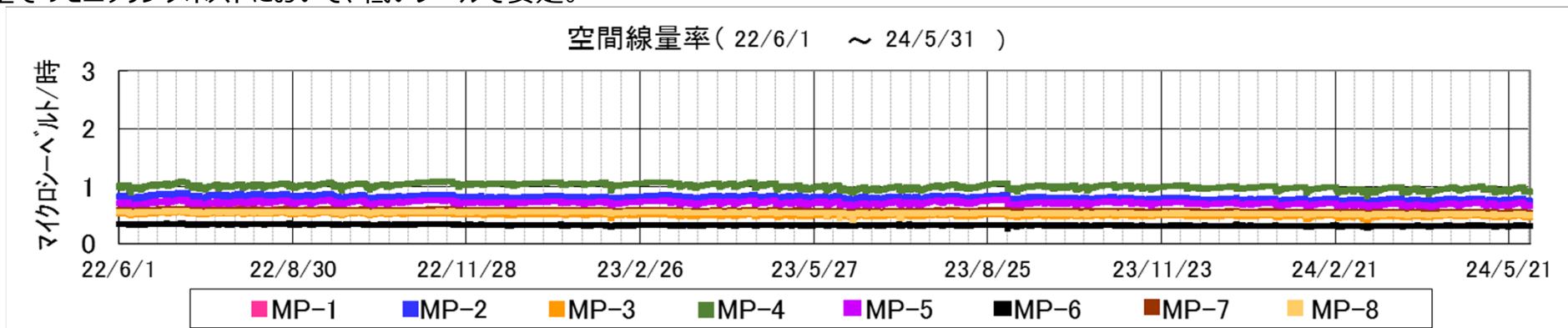
A 水（海水、排水路、地下水等）

- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未滿。
- ・K排水路のセシウム137濃度は、降雨の多い春から秋にかけて上昇がみられ、冬季は低下。排水路の清掃や敷地全体の除染等の対策を実施中。



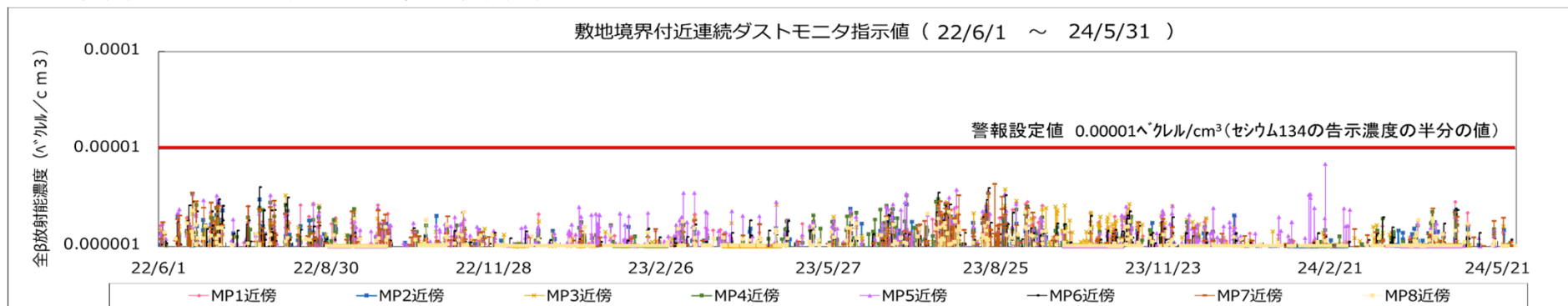
B 空間線量率

- ・全てのモニタリングポストにおいて、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、大きな上昇はなく、低い濃度で安定。



サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

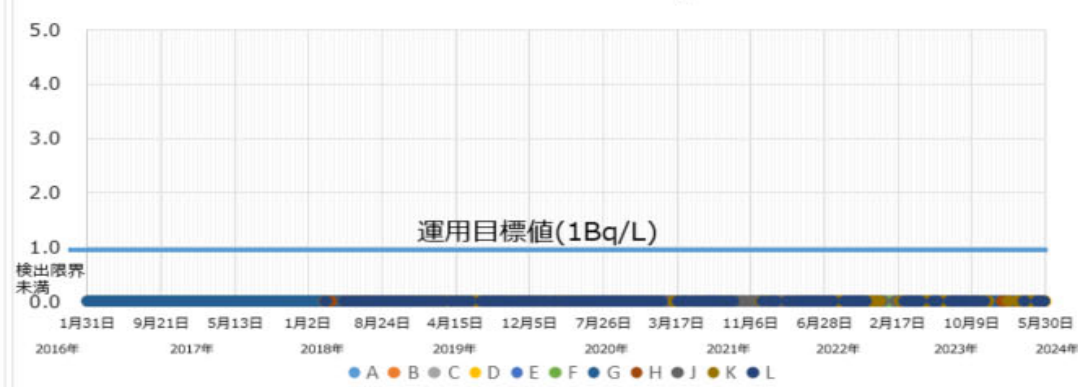
- 一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果で、セシウム134、セシウム137、全ベータ（ストロンチウム等）、トリチウムが運用目標値を下回っていること、その他ガンマ核種が検出されていないことを確認。
- 同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認した上で、2015年9月14日から2024年5月31日までに合計2,453回、1,693,566m³を排水。
- 引き続き、分析結果が運用目標値を下回っていることを確認した上で排水する運用を徹底。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）

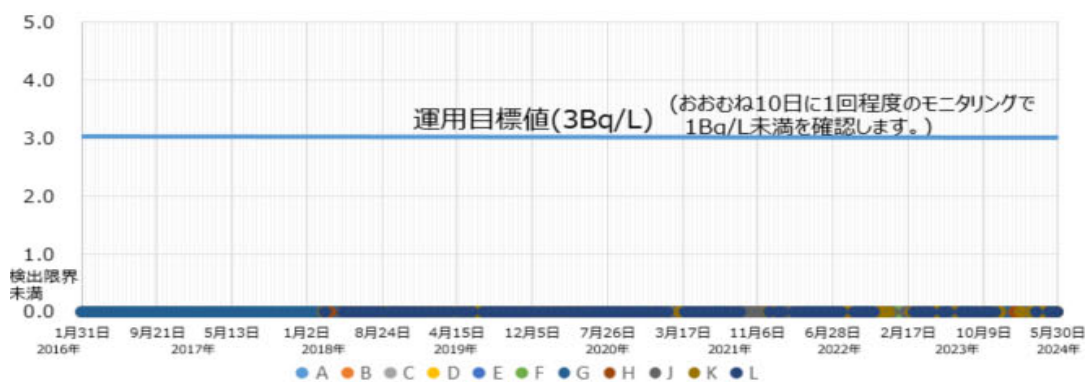
セシウム134濃度 (Bq/L)



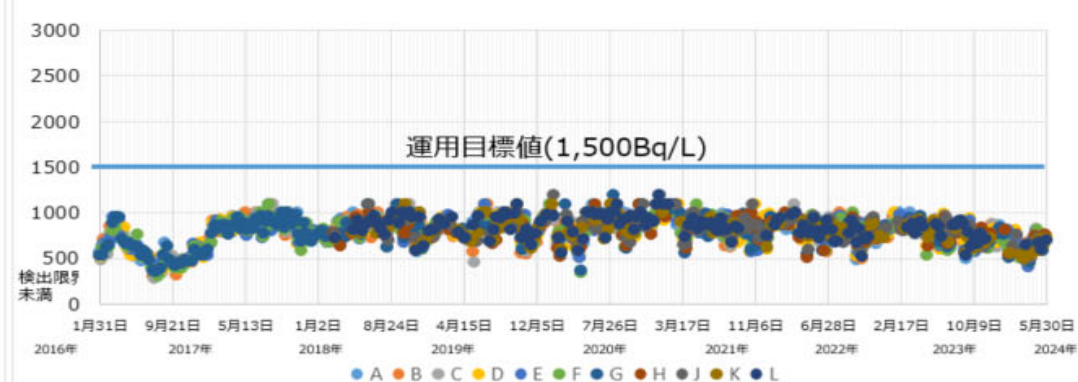
セシウム137濃度 (Bq/L)



全ベータ濃度 (Bq/L)



トリチウム濃度 (Bq/L)



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<https://www.tepco.co.jp/decommission/data/analysis/index-j.html>をご覧ください。